

平和の形はどんなですか？

丸い感じがしますね。

手触りは？

やわらかで、温もりがある感じがしますね。

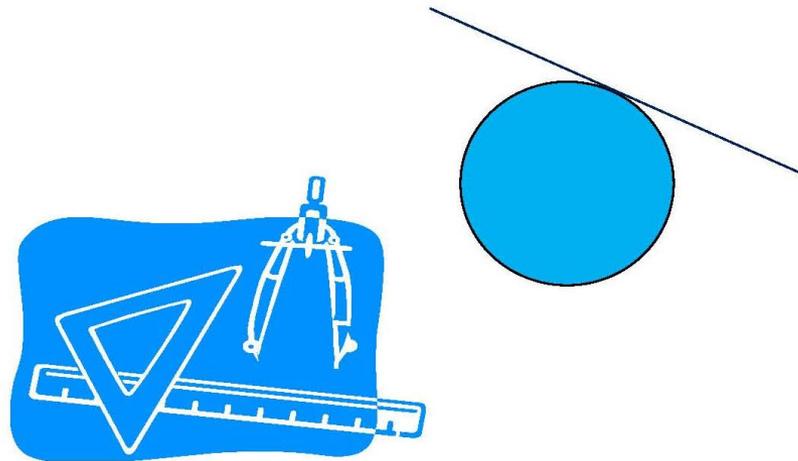
ところで、わたしは子供たちに数学を教えています。

皆さんは、まーるい円にそっとふれる線を描いたことがありますか？

今は、どんどん便利なツールが開発されているので、なんてことはないですね。

でも、ちょっと立ち止まって、想像力や思考力をはたらかせてみましょう。

コンパスと定規があれば、できますね。そう、まーるい円にそっとふれる線は、コンパスと定規だけで描くことができます。それを、作図といいますね。



まーるい地球をそっと包む平和を作図するには、何が必要ですか？

科学技術が発展し、様々なツールが開発されていますね。

でも、平和を作図するのに、武器はいりません。

立ち止まって、想像力や思考力をはたらかせてみましょう。

人間には、もう想像力や思考力がなくなってしまったのでしょうか。

そんなはずはありません。

平和を作図するのに何が必要なのでしょう？

対話ですか？ 心ですか？

そのことを、まずはあなたの隣の人と考えましょう。

そして、みんなで考えましょう。



中路



戦場に咲く笑顔の花々

この花が平和な世界で
咲けますように・・・

戦争のない世の中へ

No more wars



大瀬良

孫とゆく 散歩の幸せ
世界にあるだろう
さまざまなそれぞれの平穩





Justice War



本当かな?



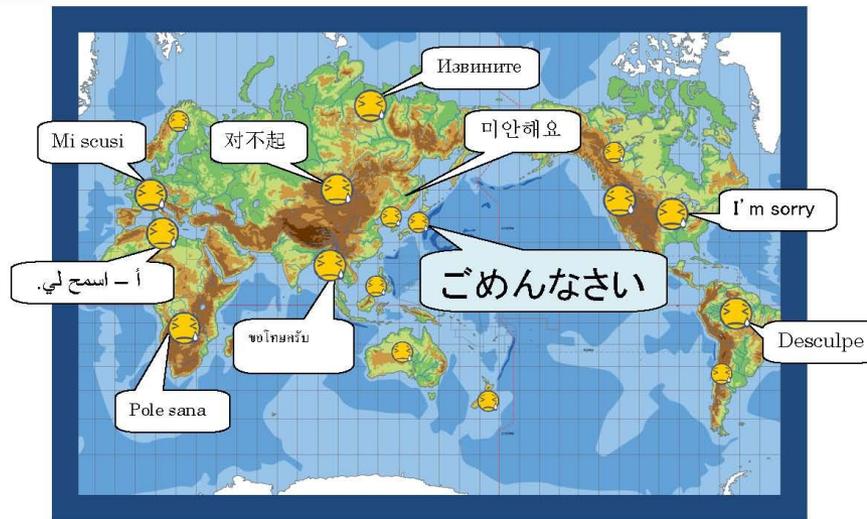
考え続けることをやめないで!

松浦

Does it show
the Light of peace?



森脇



世界中に「ありがとう」という言葉があります。世界中に「ごめんなさい」という言葉があります。どちらもとても大切な言葉。でも、「ありがとう」であふれている世界と、「ごめんなさい」であふれている世界、あなたはどちらがいいですか？

永井

添い寝する

小春日和で

ピースフル



三井田

なぜ？

どうして？

**起こってはいけないはずの
戦争が起こってしまったのか**

考えてみませんか？

そこに平和への入口を見つけませんか

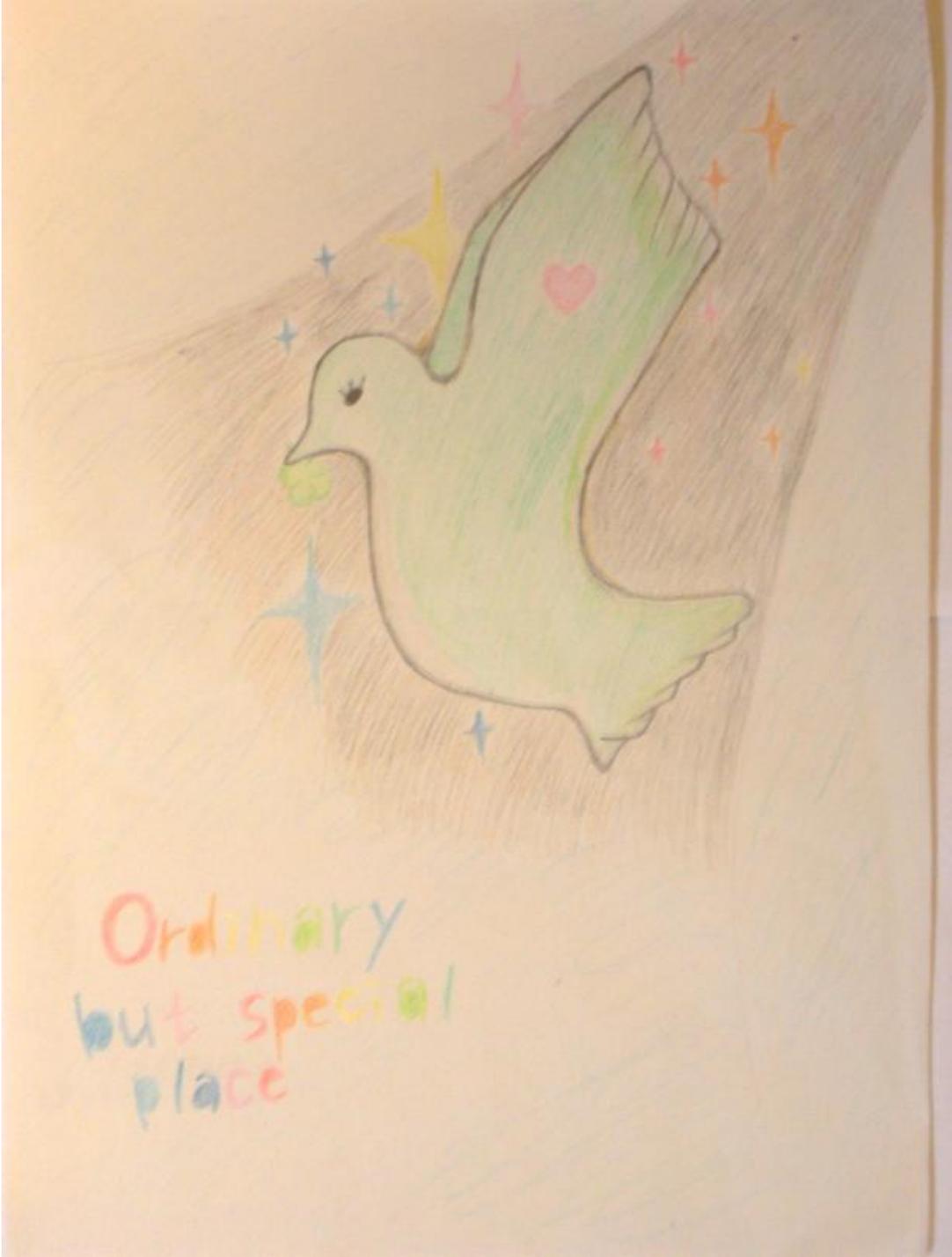
NO

MORE

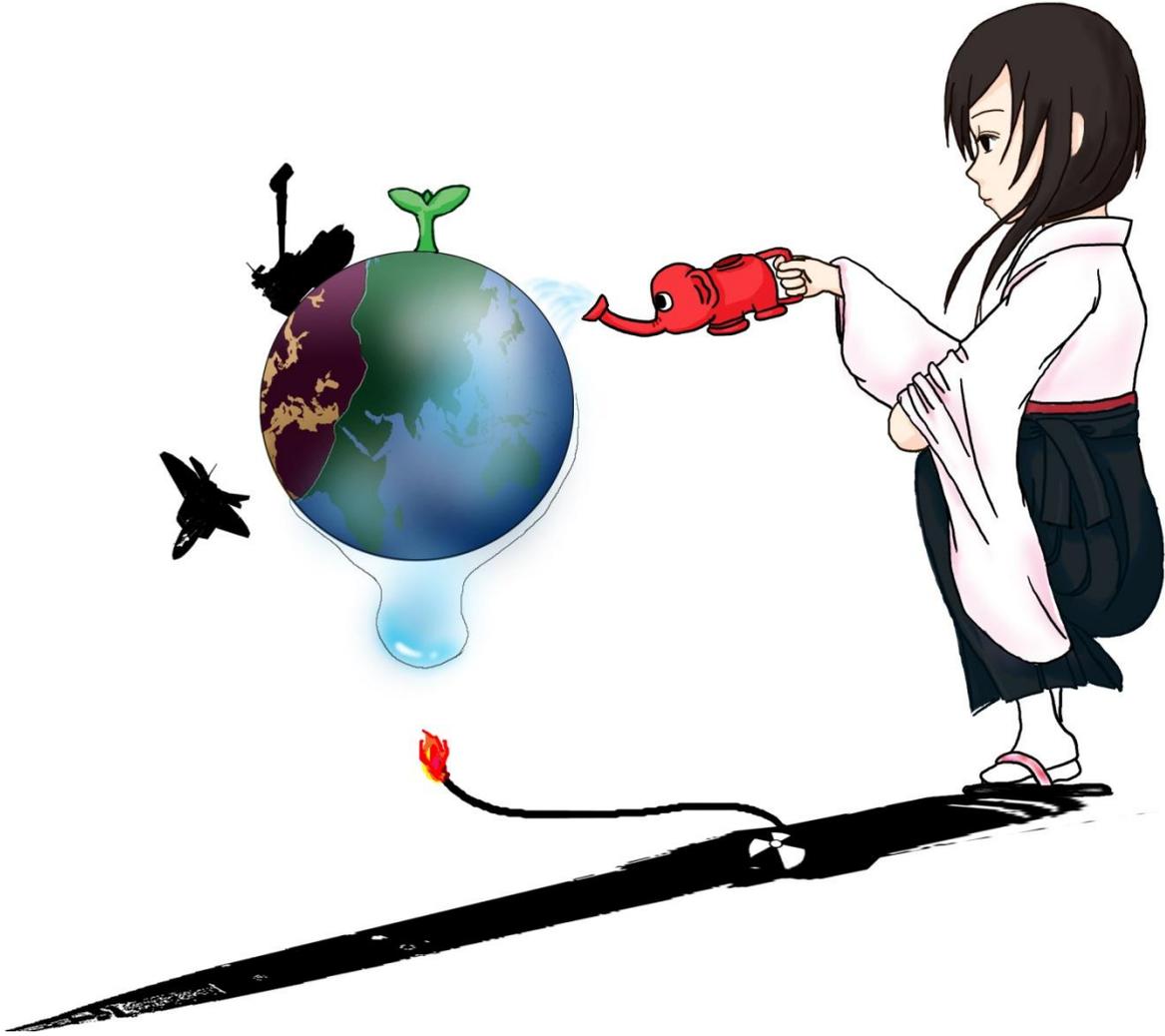
WAR



河野



中村



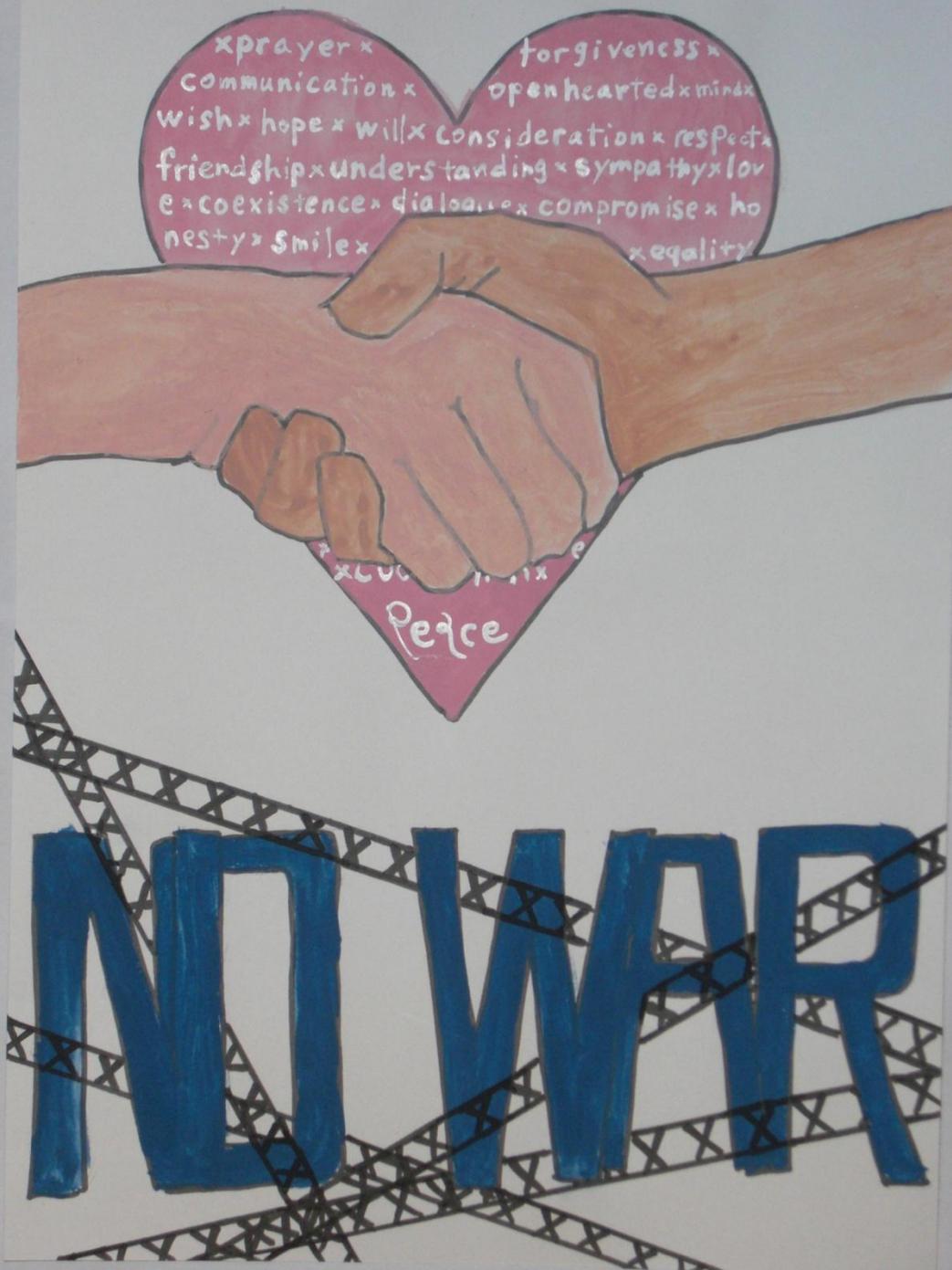
宮代

戦争は自然破壊者!!

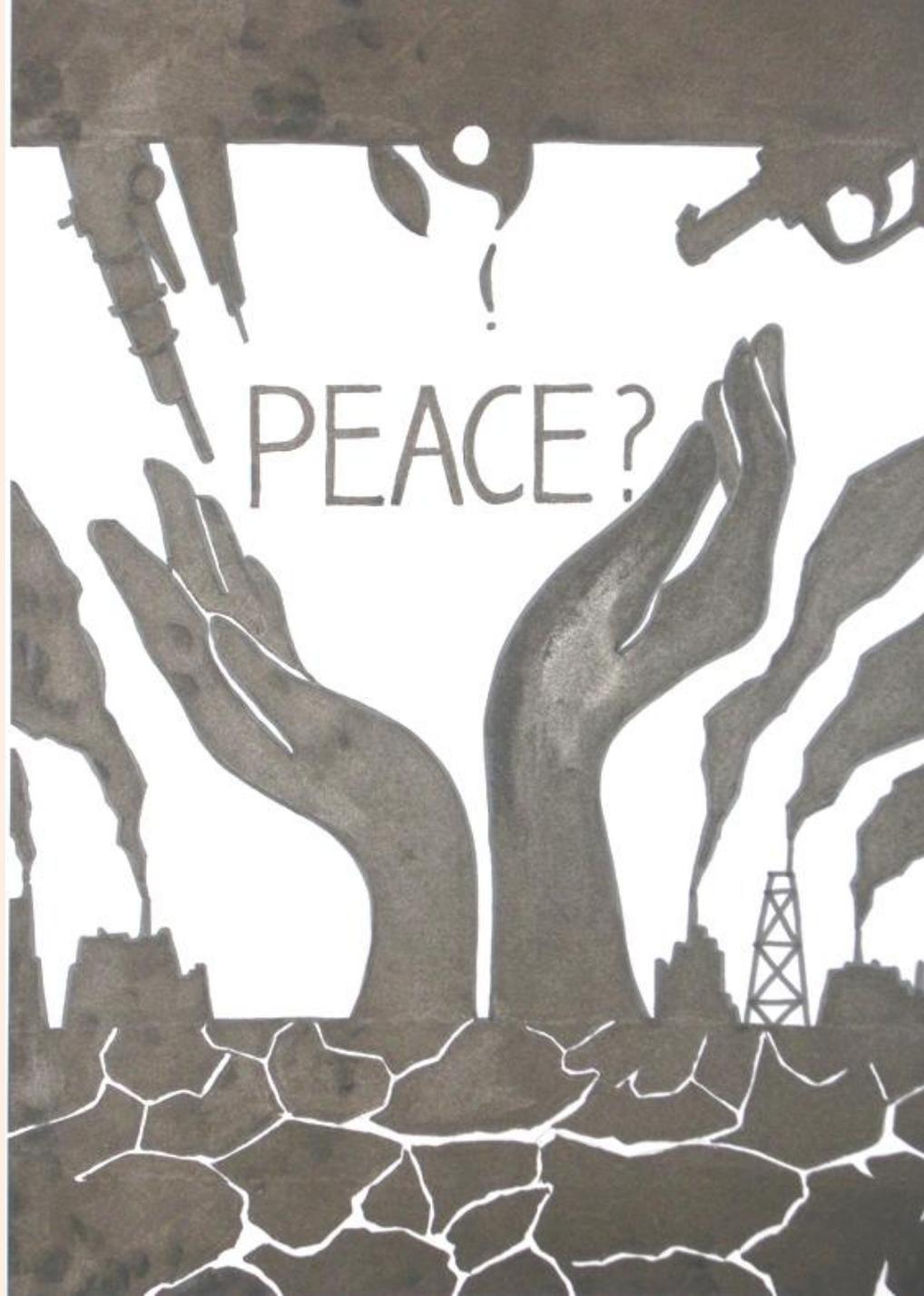




耳を封はせば
聴こえてくる
平和の音



井田



渡邊

平

和

ってなんだ？

大石



世界がなくなる前に . . .

NO MORE WAR

橋本



全ての楽器を
楽器に!!

微笑ましい情景である。アフガニスタンの少女がアメリカ兵に花を手渡している写真である。写真の題名は「戦争」。戦争とは何か。平和とは何か。様々な物議を醸し出した一枚である。しかし、このように微笑ましいことばかりではない。戦争に巻き込まれる子供達は様々である。

戦争が起こればそれがすべて悲惨であるためにこのような小さな事がクローズアップされ、感動を呼ぶことは少ないだろう。しかも日本では特にこのようなことを好む。Youtube などにも、アメリカ兵の帰還の感動の再会のビデオなどもあり、多くの人間に感動を与えている。しかし、それは都合の良い側面だけを見ているに過ぎないことに気づかなければならない。このような何でもないことが大きな感動を呼ぶだけの悲惨な現状があることを知る必要がある。

次は長崎の原爆投下後のある兄弟を写したものであり、有名な写真である。しかし、戦争ではこのような現状が普通である。もしくは、戦争の本質を写していると要っても過言ではないかもしれない。戦争で誰が苦しみ、誰が傷ついているのか。最初の写真とは対照的で、これが戦争であると言える。このような悲しみを味わうのは関係のない子供、一般人である。



この写真は火葬場の列に並ぶ兄弟を写したものである。弟は原爆被害に遭い命を落とし、親は原爆でなくした一人の男の子。直立で火葬の順番を待つ姿を写したものである。撮影したのはアメリカのカメラマンであり、彼はこの少年に声を掛けることができなかったという。弟が焼かれる姿を見つめるその唇には血がにじみ、顔は真っ赤であったという。もし声を掛けるとその場で崩れてしまいそうな状態だったそうだ。

このような惨状が何故起こるのか。戦争があるから。人々はこのように写真を残し、現在では美談のように伝えるが、これが戦争である。

人は失う。それは代価であるように思うが、代価を払うことを惜しんだところで、得られるものはさほど変わらない。それよりも代価を払い、無くしたときに初めて気づくその物の大切さ。自分は当事者でない、我が身に起きることではない。そんな風に考えるから現代が成り立っている。そう考えている。しかし、人は悲しむ。当然だ。最愛の人を亡くして涙は流れる。嘆き悲しむ女性の写真だが、戦争だから仕方ない。本当にそうなのか、もう少し考えてみる必要はないのか。平和という漠然とした状態、



課題、問題それはどのようにして成り立つのか。腰を据えて考える必要があるのではないかと。私は訴える。当事者でない



我々にできることは限られているかもしれない。戦争の本当の悲惨さを見たことのない我々にはただの詭弁しか語れないかもしれない。しかし、その詭弁が語れるのは、我々だけである。感動よりも悲惨の割合の方が、得るよりも失う方が大きい。戦争の良い面なんてほんの一瞬でしかない事を理解する必要があるのではないかと。それを考えることが平和を考える

一つでないか。本当に人が得るべきものは何であるか。そしてそれを求める方法は現在の選択で間違えていないのか、考え直すべきであろう。

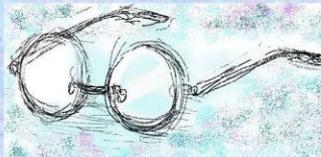
Peace! No War,
Love

A central graphic featuring a glowing orange and red heart with a flame-like pattern inside. The heart is set against a red background that transitions to a light blue gradient at the top and bottom. The words "Peace! No War, Love" are written in a bold, black, cursive font, curving around the heart.



食べることのできない世界の子どもたち。
それでもあなたは、食べ物を残しますか？
それでもあなたは、食べ物を残せますか？

ねえ、この世界って 何色？



誰が良い人で誰が悪い人か分からない。
誰が味方で誰が敵なのか分からない。

もし、世界が白と黒だけで見え、善と悪が白と黒で見えてしまうメガネをかけていたら、
簡単に良い人と悪い人を区別できる。
でも、もしそんなメガネをみんながかけていたら…。



メガネの力で「悪」だと決めつけられた人は、きっとみんなから無視される。
石を投げつけられる。銃を向けられる。殺される。



だってその人は「悪」だから。

笑顔でも、一度メガネの力で「悪」だと決めつけられてしまうと、
人々は笑顔の裏にある「悪」を恐れる。



メガネをかけている人は、メガネの世界を信じてしまう。

いったんメガネをはずすと、善も悪も分からない。
白と黒だけの世界とは違って、色のある世界は気持ち良い。



いろんな色の世界にあふれる。

でも、そこには赤い血が流れていることに気づく。
怖くなって、すぐさまメガネをかける。
善と悪の白黒の世界。
もう赤い血は見えない。



窪野

「ことば」は、カ。



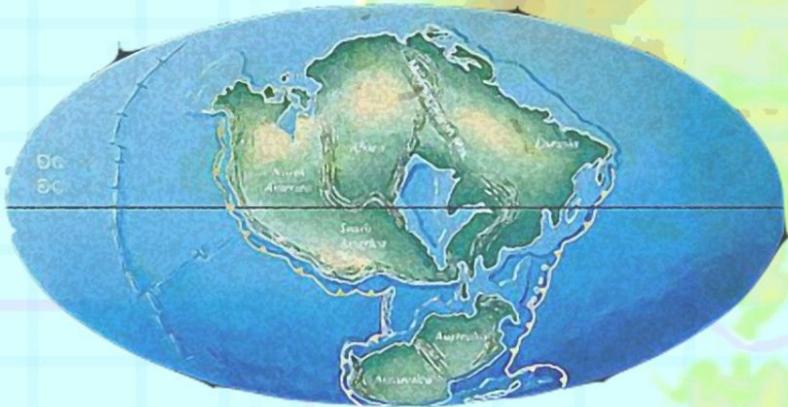
Communicate
through language
for everlasting peace

佐和

6 MINUTES TO DOOMSDAY
OR
1434 MINUTES TO PEACEFUL TOMORROWS



かつて世界は



ひとつだった

岡田

ひとつの



世界に平和を

藤本